

感染制御における課題

ネットワーク形成を前にして

弘前大学医学部附属病院
感染制御センター
萱場広之

1

感染制御における課題

1. わかっているけど……アウトブレイク対応への躊躇
2. 相互チェックってどうするの？
3. 縄張り（院内の縄張り 施設の縄張り 地域の縄張り）
4. 行政とうまくやってる？
5. 世間の目
6. ICDはどこに行くのか？
7. ICNは誰のために働くのか？
（患者のため、地域のため……それとも看護部のため？）
8. モグラたたきの耐性菌対策……ESBLsどうしますか？
9. 施設による違い
10. 医師の参加……今一つだなあ……

2

アウトブレイク対応の姿勢

- 現場で普段みられない新たな患者の発生や増加があれば、疑いを持った時点で介入を含めた対応を開始する。
- 事が過ぎて過敏な反応と批判されることを恐れてはならない。
- 対応の遅れによる重大な結果への危機感を持って対応する。
- ICTの構成員1人1人が厳しい認識を持って臨む。
- 往々にして発せられる楽観的態度に迎合してはならない。

3

2010年12月22日 朝日新聞 7ページ

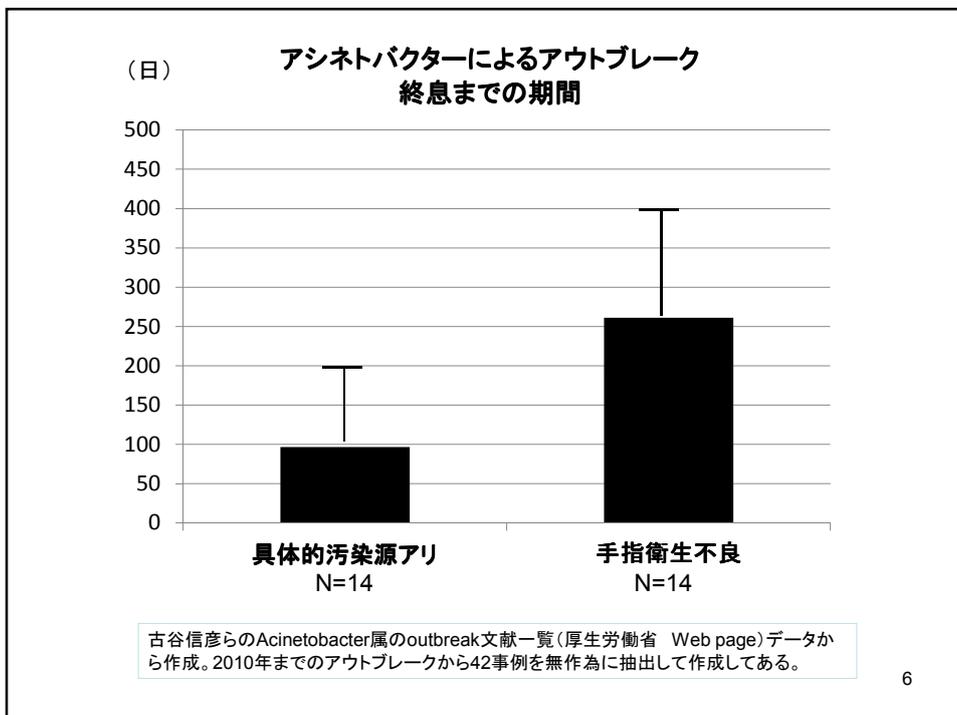
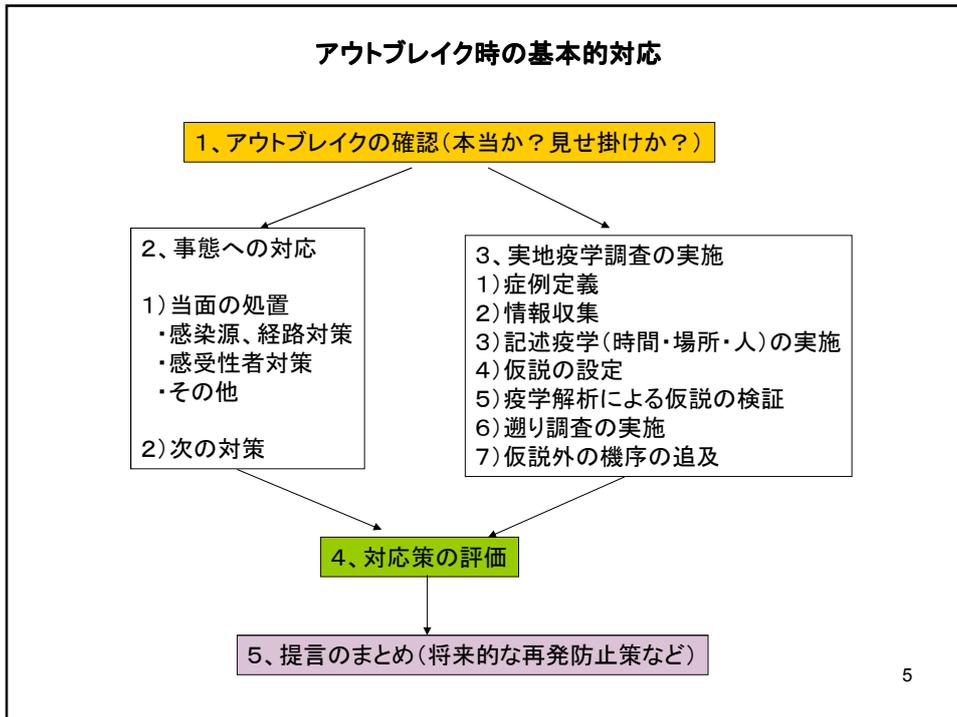
院内感染 4週間に3人特定 ↓ 対策をさらに感染 10人以上 ↓ 保健所へ報告

院内感染対策を検討する厚生労働省の専門家会議は21日、多剤耐性菌の感染が広がっていることを受け、病院が保健所に報告する際の基準を盛り込んだ提言をまとめた。

1人目の感染者発見から4週間以内に同じ病棟で同じ種類の菌による感染者が3人以上特定されたら、医療機関は院内で委員会を開いて対策に着手することが必要とした。

それでも感染者が10人以上になったら、保健所に報告する必要があるとしている。

今年9月、帝京大病院（東京都板橋区）で多剤耐性の細菌アシネトバクターによる大規模な院内感染が判明。病院から都などへの報告や対策の遅れが指摘されていた。



院内感染
 Rieko Hirose
富家恵海子

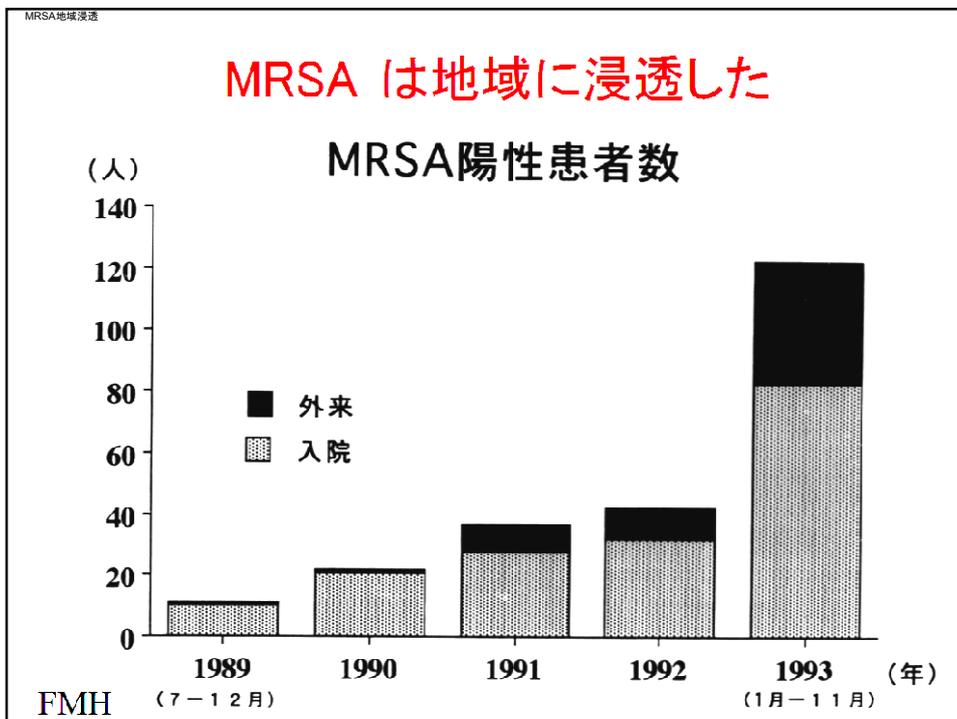
手術は成功したのに
 あの人は
 帰らぬ人となった!

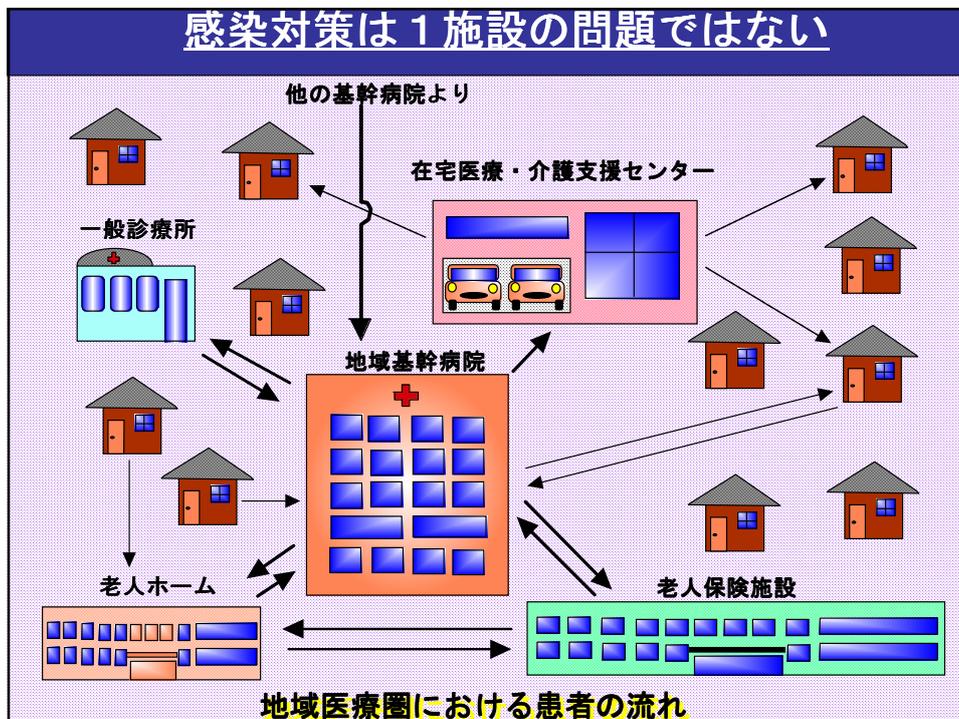
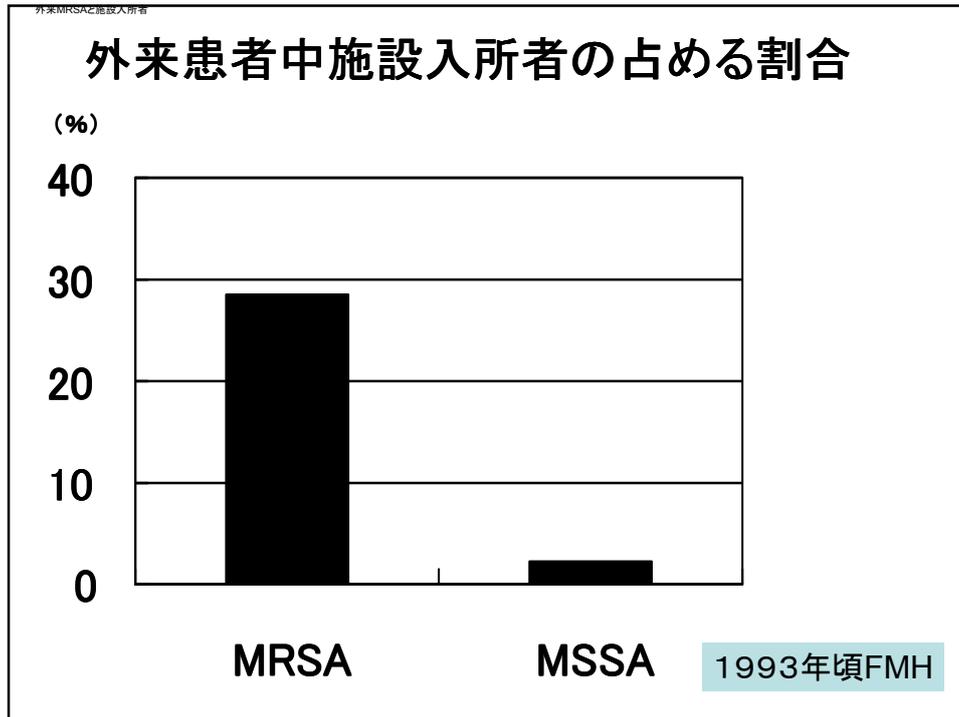
日本テレビ系・よみうりテレビ制作
 4月3日(木)夜9時30分放送!

よみうりテレビ シンデレラ大賞受賞
 ドラマスペシャル「院内感染」 河出文栄 監修 430円(本体478円)

1990年1月刊

7





1986-7年に相次いで報道された医療従事者のB型肝炎による死亡例

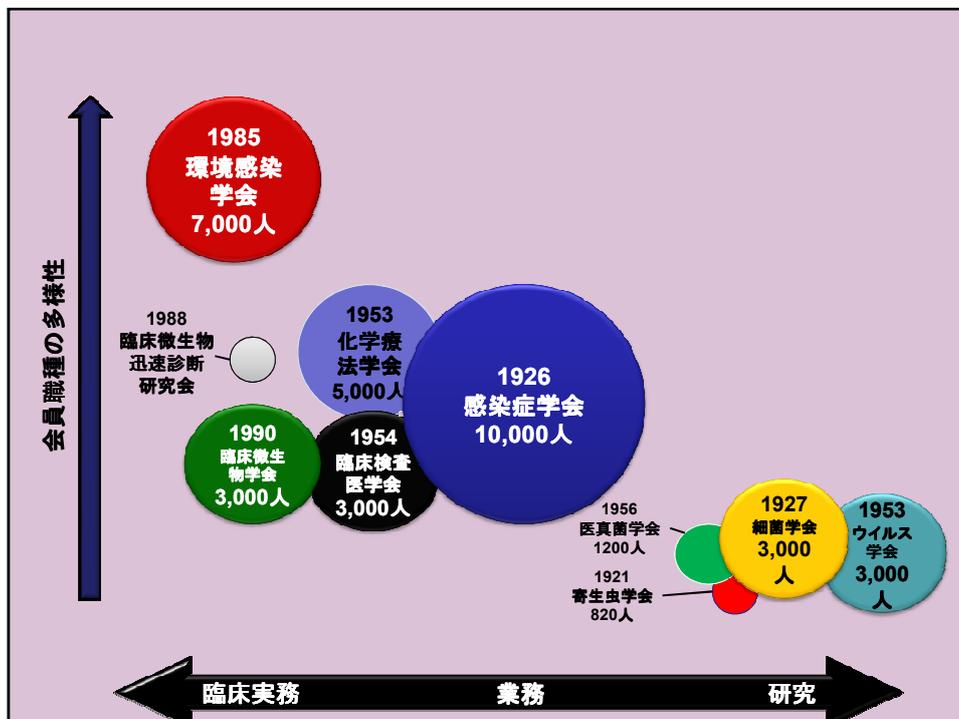
1986

- ・東京女子医科大:看護師がB型肝炎に感染し死亡
- ・大宮日赤病院:医師が患者の吐血を浴び、B型劇症肝炎で死亡

1987

- ・三重大病院で医師2人、看護師1人がB型肝炎に感染し、医師2人死亡
- ・岸和田市民病院:看護師がB型劇症肝炎で死亡
- ・福岡大病院:医師3人がB型肝炎に感染し、2人死亡
- ・清水厚生病院:看護師がB型劇症肝炎で死亡
- ・愛知県町立野村病院:看護師がB型劇症肝炎で死亡

11



国公立大学附属病院 感染対策協議会

TOPへ戻る お問い合わせ

ご案内

- 概要
- 沿革
- 活動内容
- 機関誌
- 国公立大学附属病院感染対策協議会
- サイトマップ

お問い合わせ

お知らせ

＜小森島より＞
 会員の皆様、ログインするためのIDとパスワードをお忘れの方は、事務局までお問い合わせください。
 LUBPWORD 前編、空白があるとログインできませんので、削除してからログインしてください。

What's new

2012/01/25

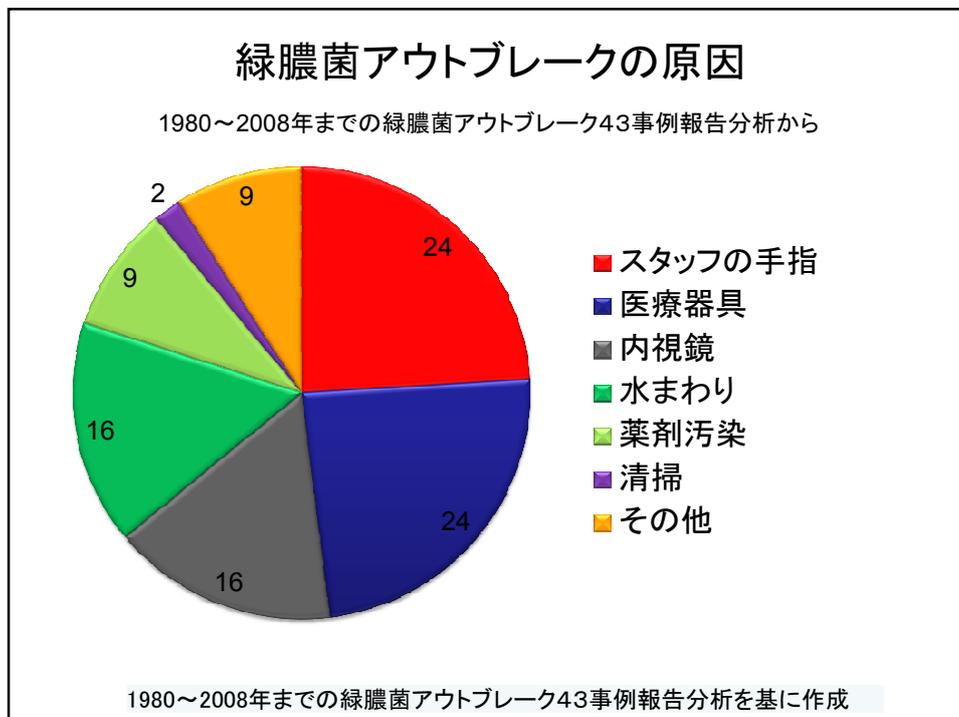
（林）にほうより
 国公立大学附属病院感染対策協議会 病院感染対策ガイドライン（改訂版）が出版されました。
 ・ダウンロード

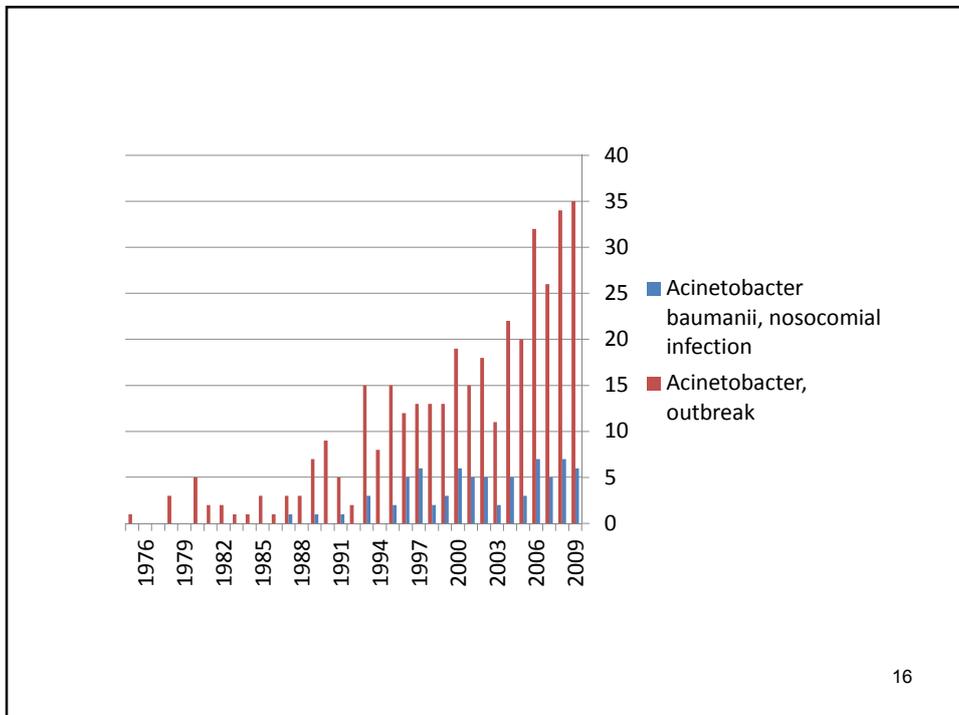
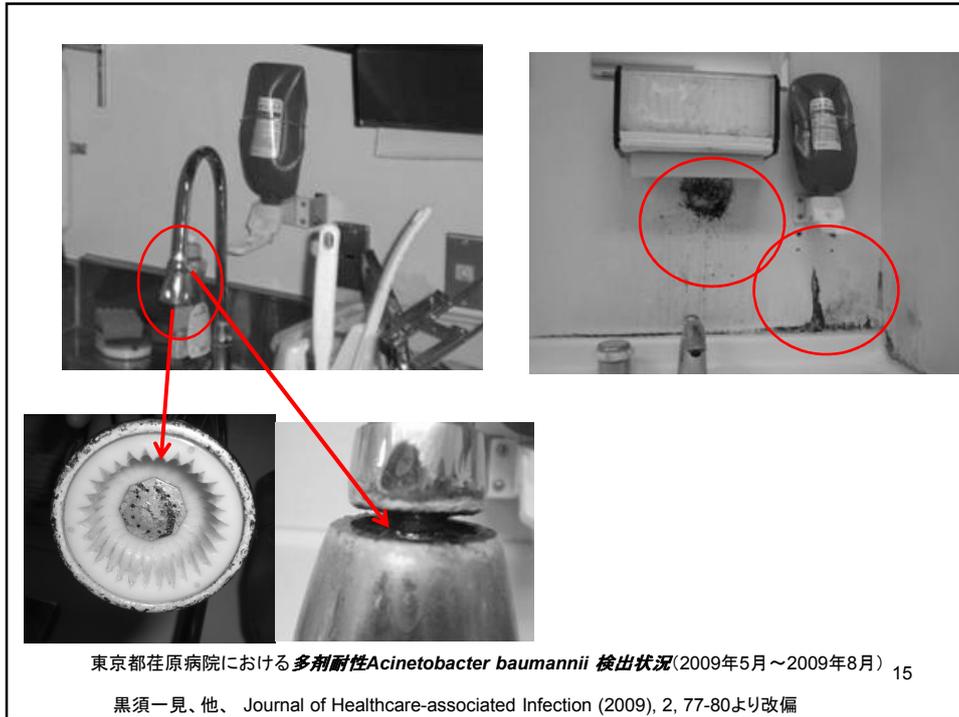
2012/01/25

（林）より
 国公立大学附属病院感染対策協議会 病院感染対策ガイドライン（改訂版）が出版されました。

007090

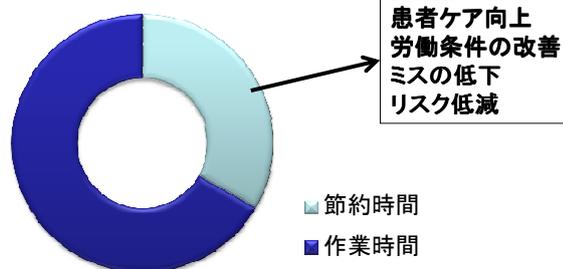
13

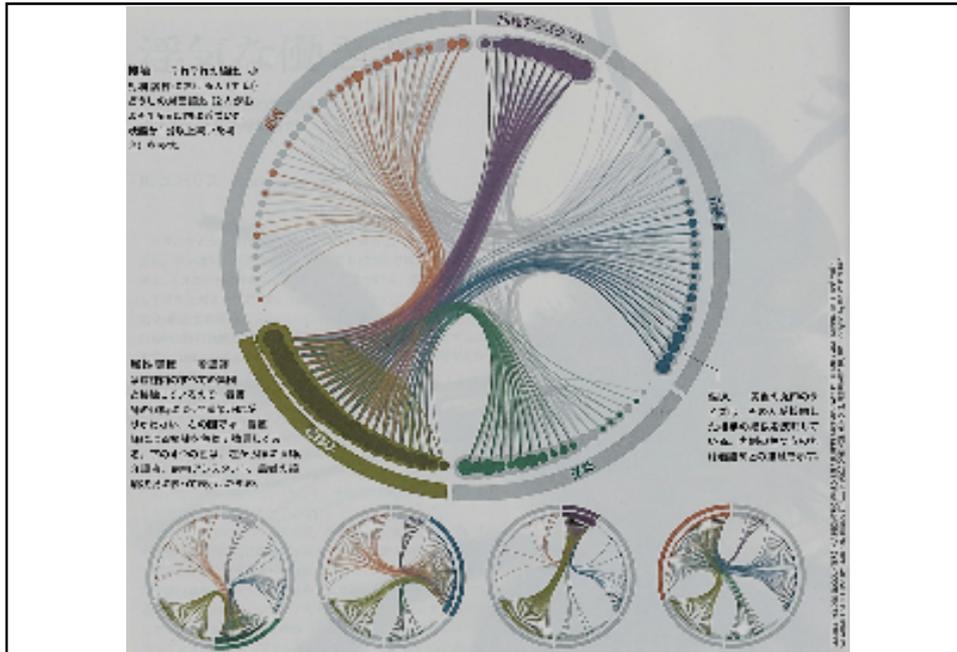




MDV関連アウトブレイク						
報告者	年	病原体	感染症	感染者数	MDV製剤	場所
Inman	1969	Mycobacterium abscessus	膿瘍	12	ヒスタミン	
Borghans	1973	Mycobacterium chelonae	膿瘍	47	DPT+Polio 4混ワクチン	外来
Cabrera	1975	Pseudomonas sp.	血流感染	5	生食	CCU
Kothari	1977	Pseudomonas septic	敗血症+関節炎	1	ステロイド製剤	外来
Greaves	1982	Streptococcus sp.	膿瘍	7	DPTワクチン	外来
Alter	1983	HBV	B型肝炎	10	局所麻酔剤	透析
Stetler	1985	Streptococcus sp.	膿瘍	12	DPTワクチン	外来
Stedler	1985	Streptococcus sp.	膿瘍	7	DPTワクチン	外来
Nakashima	1987	Serratia liwuefaciens	関節炎	8	塩化ベンザルコニウム汚染、ステロイド製剤	外来
Black	1988	Streptococcus fecalis	膿瘍	1	インスリン	家庭
Oren	1989	HBV	B型肝炎	5	ヘパリン	
Simon	1993	Streptococcus sp.	膿瘍	8	DPTワクチン	外来
Archibald	1998	Enterobacter cloacae, Pseudomonas aeruginosa	血流感染	6	デキストロース	NICU
Katzenstein	1999	HIV	HIV感染	1	foscarnet(抗ウイルス薬)	外来
Kidd-Lungen	1999	HBV	B型肝炎	2	局所麻酔	外来
Phillips	1989	Streptococcus sp.	腹膜炎	1	ヘパリン、インスリン	腹膜透析
Widel	1999	HCV	C型肝炎	10	点滴路フラッシュ用製剤	小児悪性腫瘍治療部門
Widel	1999	HCV	C型肝炎	9		
Grohskopf	2001	Serratia sp.	血流感染	20	エリスロポエチン	透析
Massari	2001	HCV	C型肝炎	4	プロポフォール	産婦人科手術
Krause	2002	HCV	C型肝炎	5	ヘパリン生食	救急外来

プレフィルドシリンジは
看護師の手間を省いて
必要時間を25-33%削減する。

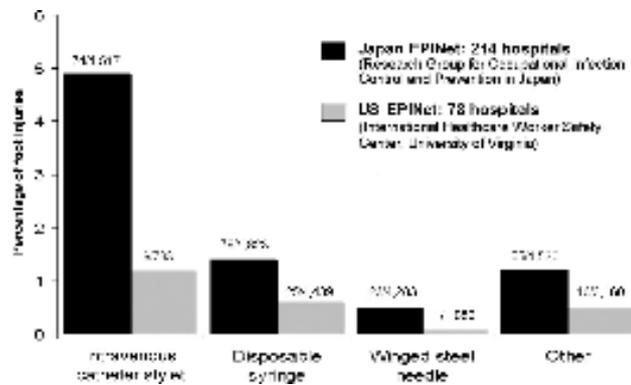




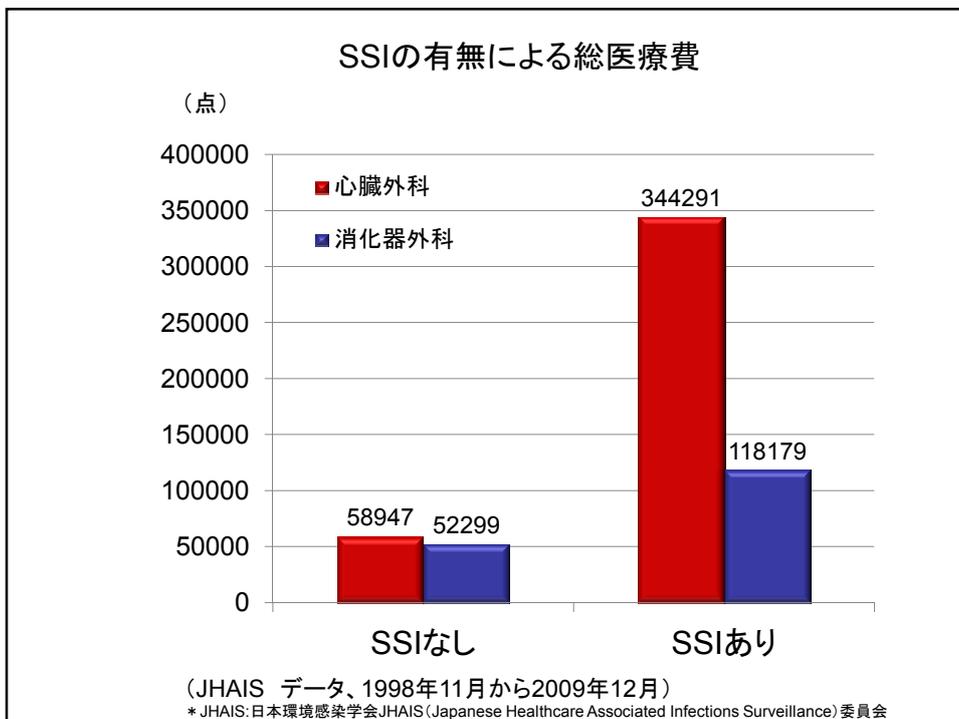
Isella L, Romano M, Barrat A, Cattuto C, et al. (2011) Close Encounters in a Pediatric Ward: Measuring Face-to-Face Proximity and Mixing Patterns with Wearable Sensors. PLoS ONE 6(2): e17144. doi:10.1371/journal.pone.0017144 <http://www.plosone.org/article/info:doi/10.1371/journal.pone.0017144>

足への中空針による針刺しの日米比較

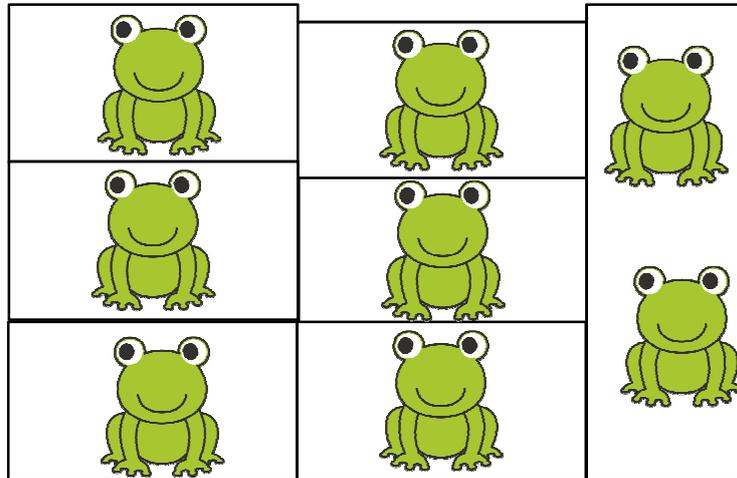
(EPINet: 1996 ~ 2001.)



Yoshikawa T, et al. Needlestick Injuries to the Feet of Japanese Healthcare Workers: A Culture - Specific Exposure Risk, . Infection Control and Hospital Epidemiology 2007; 28(2) より引用



壁を取り払うのが退治な仕事



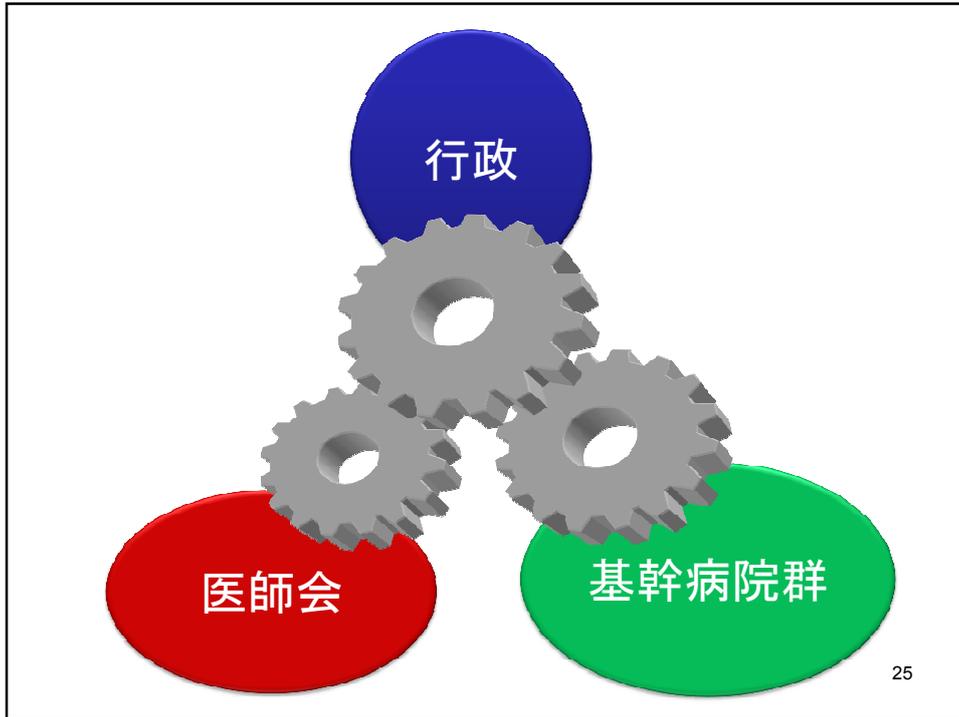
10 アウトブレイク対応における保健所の役割

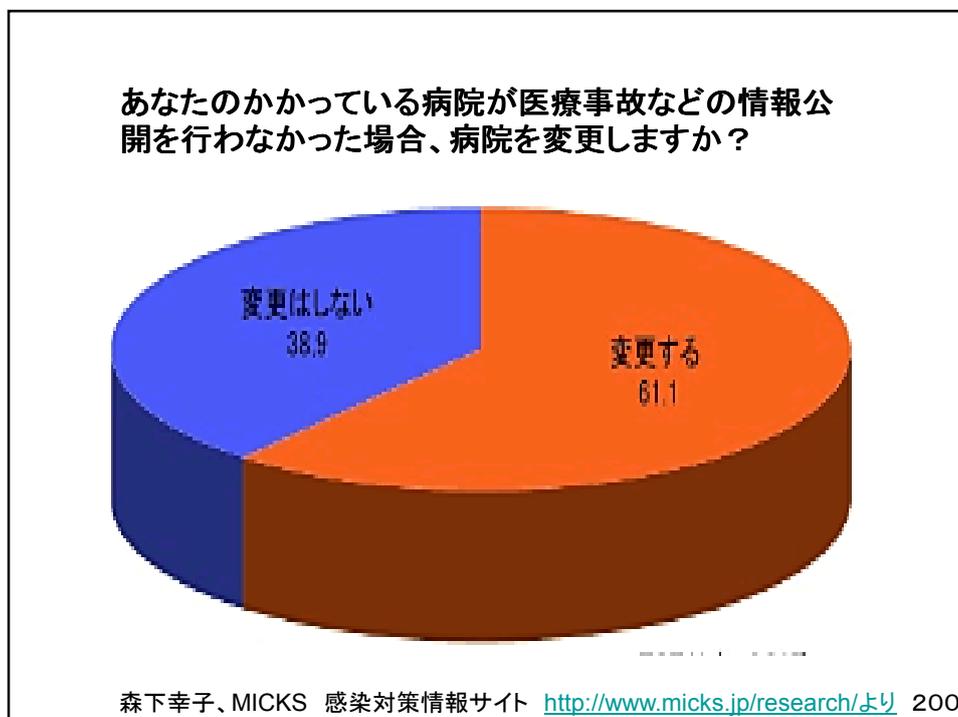
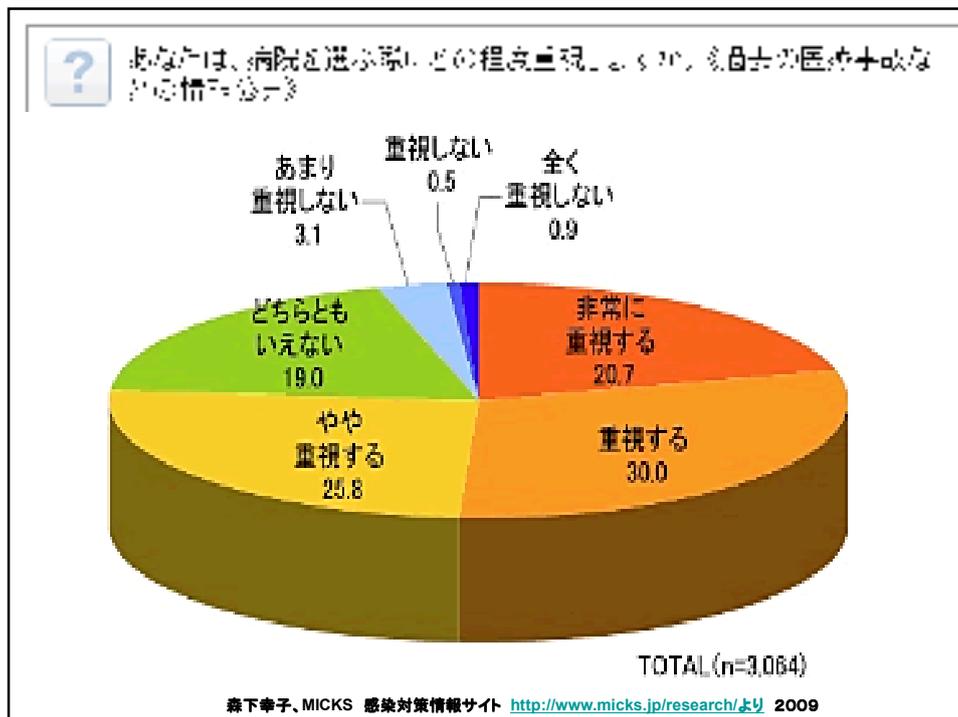
緒方 剛 茨城県筑西保健所 所長

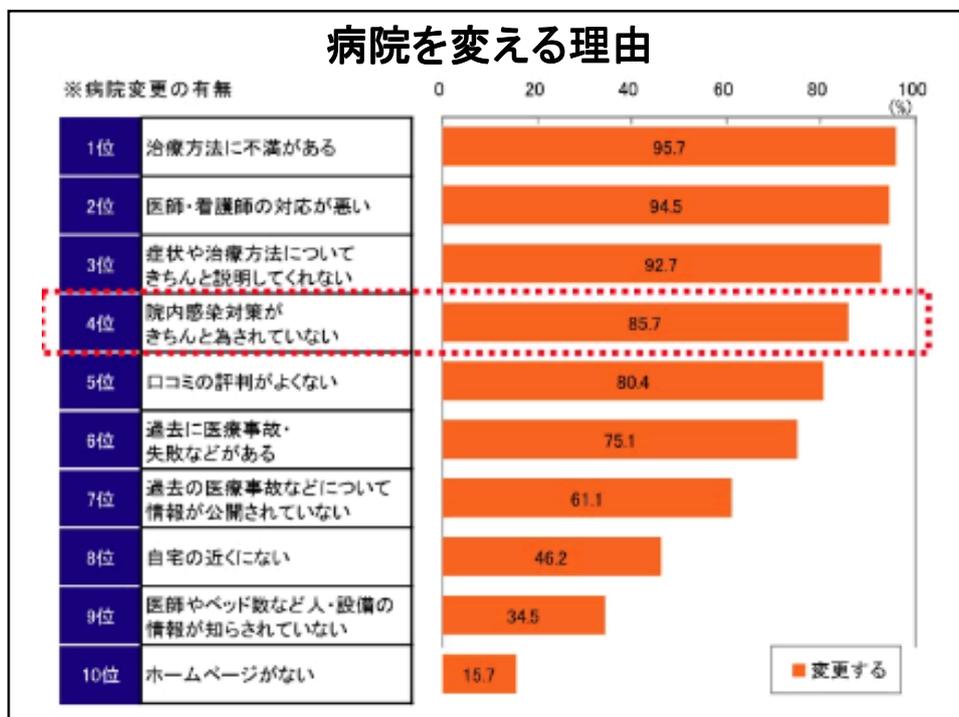
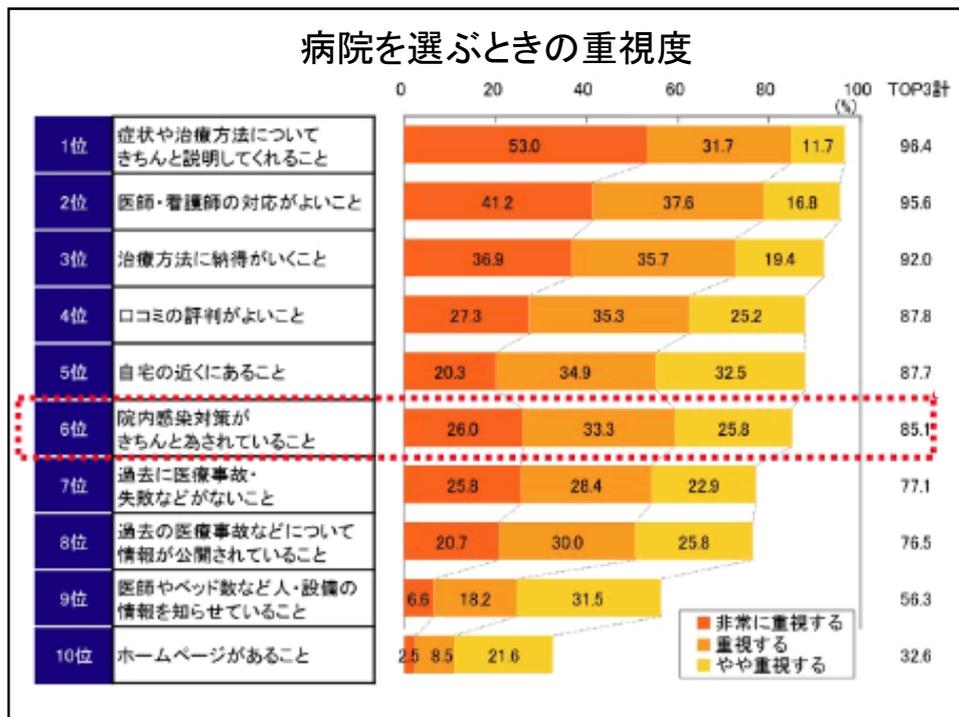
Summary and Keywords

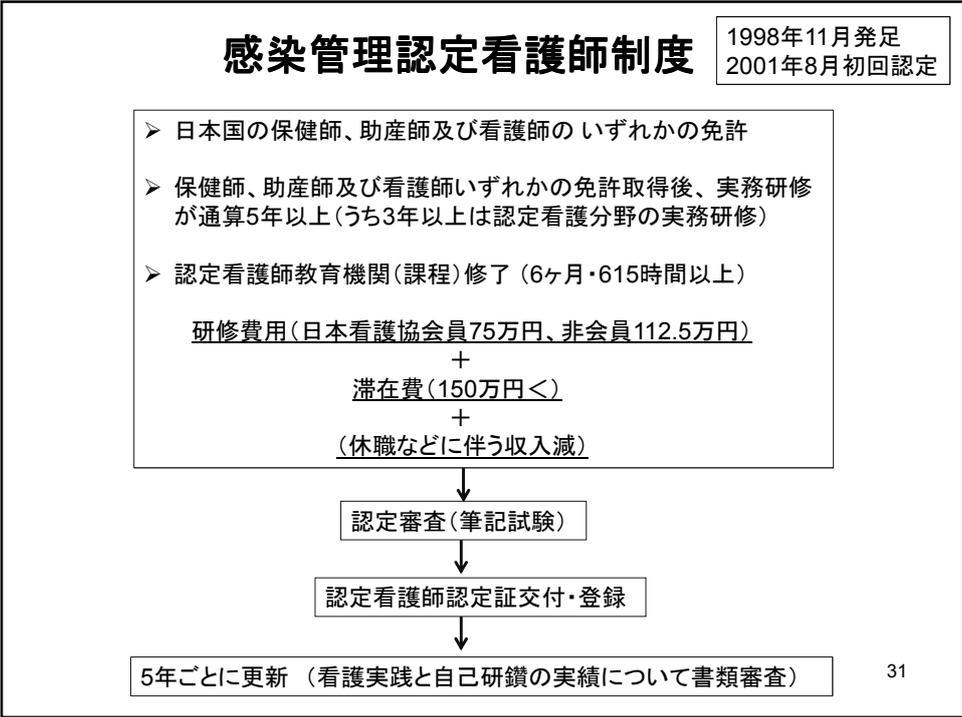
- ①アウトブレイク時に保健所は、医療機関への相談・支援、感染症法上の対応、立ち入り検査などのために関与する。
- ②保健所への連絡は、感染症法の届け出のほか、症例が10名以上または死亡者が出た場合などにも望まれる。
- ③保健所は結核、食中毒などへの対応には慣れているが、多剤耐性菌の知識などは必ずしも十分ではなく、今後病院と保健所のいっそうの連携が望まれる。

●アウトブレイク ●保健所 ●届け出 ●支援 ●立ち入り検査







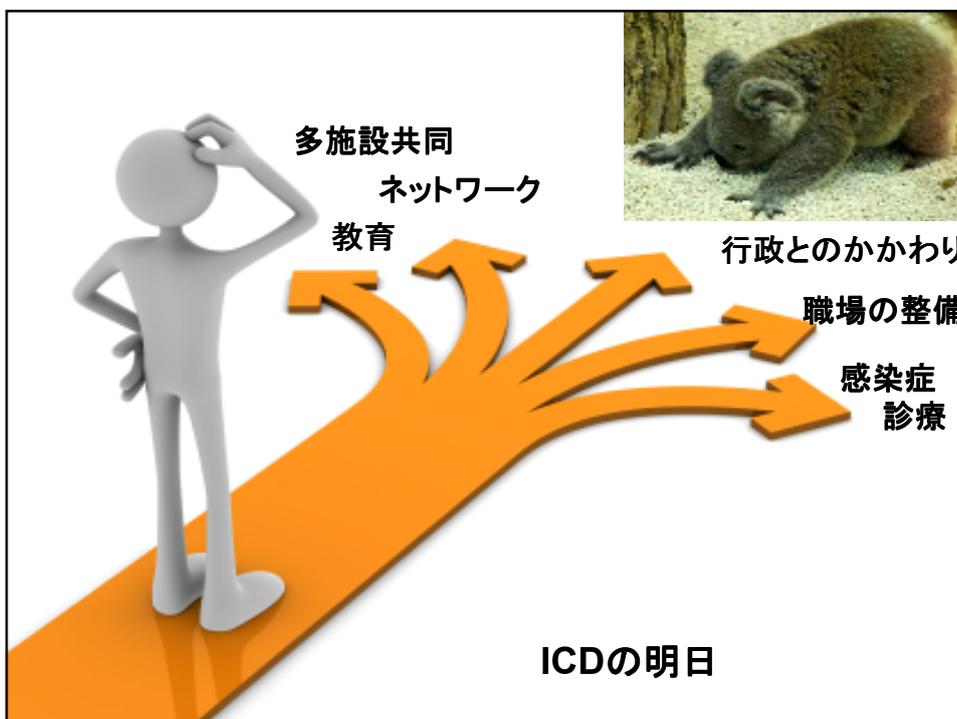
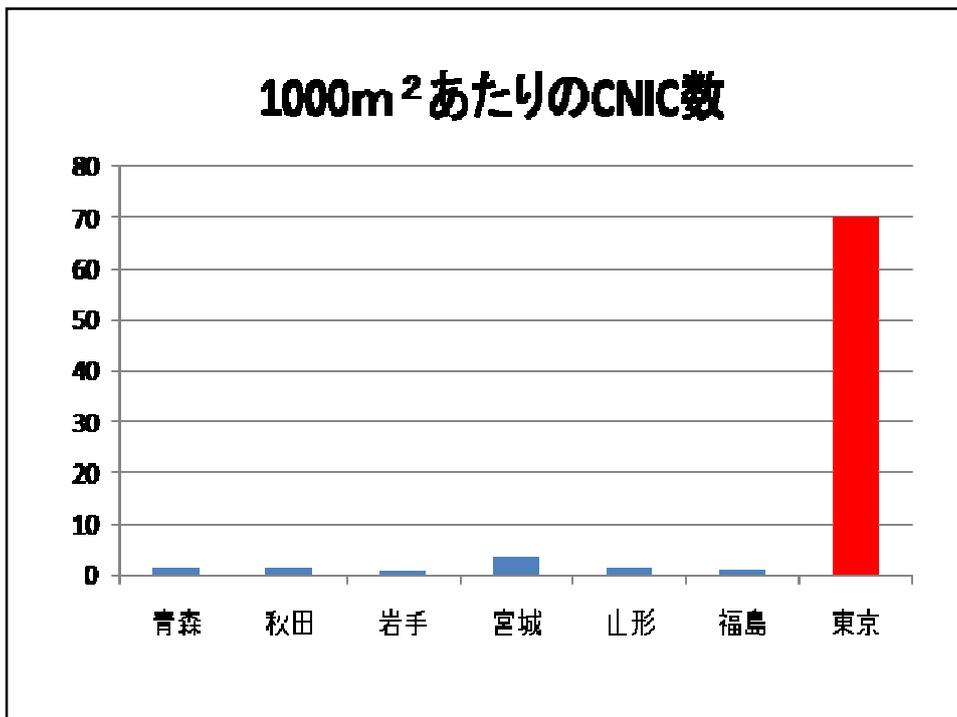


感染管理認定看護師カリキュラム概要

共通科目	120時間	専門基礎科目	120時間
リーダーシップ	15	感染管理学	30
文献検索・文献講読	15	疫学と統計学	30
情報管理	15	微生物学・感染症学	45
看護倫理	15	医療管理学	15
指導	15		
相談	15		
看護管理	15		

専門科目	120時間	演習	90時間	実習	180時間
医療関連感染サーベイランス	45	学内演習	90	臨地実習	180
感染防止技術	30				
職業感染管理	15				
感染管理指導と相談	15				
洗浄・消毒・滅菌とファシリティマネジメント	15				
総時間数 615時間					

32



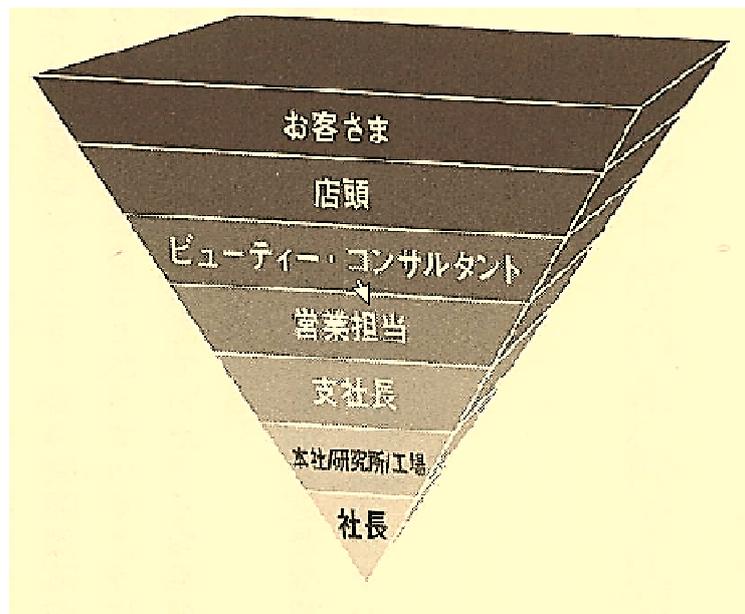


Antimicrobial Stewardship

Antibiotic stewardship refers to a set of coordinated strategies to improve the use of antimicrobial medications with the goal of enhancing patient health outcomes, reducing resistance to antibiotics, and decreasing unnecessary costs.

SHEA is on the forefront in education, research, and guidelines on this critically important issue. Antimicrobial stewardship programs are a central part of SHEA's mission to reduce healthcare associated infections, optimize patient safety, control costs, and reduce resistance to antimicrobials.

To help healthcare practitioners find the best information and tools available on this topic, SHEA offers the following resources:



池田守男、金井壽宏、サーバントリーダーシップ入門、かんき出版、2007、東京 より

ESBLの判定

CLSI (Clinical and Laboratory Standards Institute) 法

- *E. coli*, *K. pneumoniae*, *K. oxytoca*, *P. mirabilis* の4種限定
- 感度94%<

スクリーニング検査

セフトロキソン (CPDX)	パナン
セフトジジム (CAZ)	モダシン
アズトレオナム (AZT)	アゼクタム
セフトキサシム (CTX)	セフトタックス、クラフォラン
セフトリアキシン (CTRX)	ロセフィン

上記のどれかに耐性(但し*P. mirabilis*ではCPDX除く)

確定検査

クラバン酸(CVA)で阻害=感受性回復

ESBL産生菌として判定

西アイルランドの一地方(Gaiway, Roscommon)における大腸菌がESBLsを持つ頻度

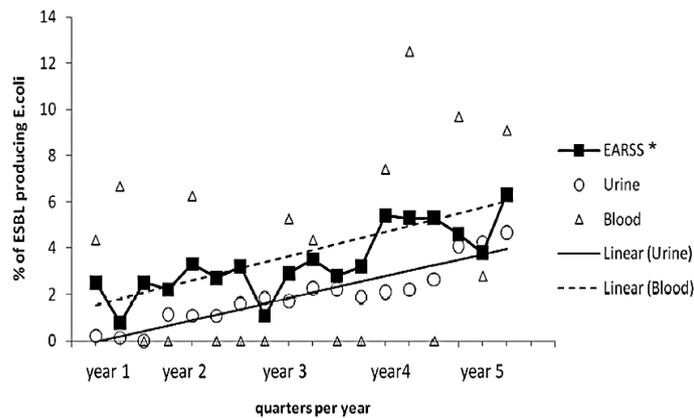


Figure 1. ESBL-producing percentage of *E. coli* isolated from blood and urine per quarter (Q1 to Q4) 2004–December 2008. The EarSS* (solid black squares) shows the percentage of ESBL-producing *E. coli* in urine samples collected in the county of Roscommon from 2004 to 2008. The general trend and the regression line are shown for urine (solid black squares) and the EarSS* (solid black squares) shows the national EarSS* data. The general trend and the regression line are shown for blood (open triangles) and the EarSS* (solid black squares) shows the national EarSS* data. The general trend and the regression line are shown for blood (open triangles) and the EarSS* (solid black squares) shows the national EarSS* data.

*: EARSS : European Antimicrobial Resistance Surveillance System
Fennell et al. BMC Infectious Diseases 2012, 12:116

